

論 説

## 子どものスポーツクラブに関する研究 －総合型地域スポーツクラブに着目して－

藤原 誠 (地域資源マネジメント学科)

山中 亮 (地域資源マネジメント学科)

### A Study on Sport Club of Children －Focusing on Comprehensive Community Sport Club－

Makoto FUJIWARA (Regional Resource Management)

Akira YAMANAKA (Regional Resource Management)

【原稿受付：2016年12月21日 受理・採録決定：2017年1月30日】

#### 要旨

本研究は子どものスポーツクラブの活動実態を明らかにするとともに、クラブ未加入の子どものスポーツ参加を促進する観点から総合型クラブの役割について検討することを目的とした。総合型クラブはこれまでのスポーツクラブに比べて女子の参加比率が高く、女子が参加しやすいクラブであることが示唆された。また総合型クラブの加入者はスポーツ実施において勝利よりもスポーツを楽しむことを重視しており、未加入の子どもと共通するスポーツ意識をもっている。さらに総合型クラブはこれまでのスポーツクラブに比べて活動頻度や活動時間が少なく、体力にあまり自信がない子ども、スポーツがあまり得意でない子どもでも参加が可能となるスポーツクラブとして位置づけることができる。今後、総合型クラブの設置・普及を推進し、これまであまりスポーツに関わることがなかった子どもたちのスポーツ参加を促進することが求められる。

#### 1. はじめに

平成23年6月24日に公布されたスポーツ基本法（平成23年8月24日施行）において、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適性等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならないことが明記された。このスポーツ基本法の理念の実現に向けて、スポーツ基本法第9条の規定に基づき、文部科学省は平成24年3月30日にスポーツ基本計画を策定した。この基本計画において、今後10年間を見通したスポーツ推進の基本方針が掲げられているが、最初に記載されているのは次のような事項・内容となっている。青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育むなど人格の形成に積極的な影響を及ぼし、次代を担う人材を育成するため、子どものスポーツ機会を充実するということである。これに次いで、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進や地域のス

ポーツ環境の整備等について述べられている。

子どものスポーツ機会については、子どもを取り巻く社会のスポーツ環境充実の具体的方策として、国は中学校女子をはじめ積極的にスポーツを行わない子どもに対して魅力ある活動を提供し、子どものスポーツ環境の充実を図るため、総合型クラブやスポーツ少年団をはじめとした地域における子どもの多様なスポーツ機会を充実させるための取り組みを推進するとしている。このように、子どものスポーツを推進するスポーツ組織として、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団などが重視されるに至っている。

総合型地域スポーツクラブは平成12年9月13日に策定されたスポーツ振興基本計画において、生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備充実方策として設置が推進されることとなった地域のスポーツクラブである。その特徴として、複数の種目が用意され、地域の誰もが年齢、興味・関心、技術・技能レベルなどに応じていつでも活動できること、また、活動の拠点となるスポーツ施設等があり、定期的・継続的にスポーツを行うことができること、さらに地域住民が主体的に運営すること等があげられ

ている。子どもを対象とした活動を行っている総合型地域スポーツクラブも多いが、総合型地域スポーツクラブが設置される前から活動しているスポーツクラブとの関係や施設・指導者不足等もあり、クラブ設置は必ずしも順調に進んでいるとは言えない。

これに対して日本スポーツ少年団は、昭和36年6月23日に財団法人日本体育協会創立50周年記念事業として創設された。その願いは「一人でも多くの青少年にスポーツの歓びを!」、「スポーツを通じて青少年のからだところを育てる組織を地域社会の中に!」というものであった。創設当時の団数は22団、団員数は753人という小さな団体であったが、スポーツ少年団が掲げた「スポーツによる青少年の健全育成」という目的の実現へ向けた動きと、東京オリンピックを2年後に控え、国民各層のスポーツへの関心とが相まって、大きな反響を巻き起こし、団数、団員、指導者がその後急激に増加していった。しかしながら、全国大会の開催等により、全国大会実施種目の登録者の増加や団員の競技技術の向上などが図られたが、試合に勝つことだけを目的とした指導および活動が多く見受けられるようになり、勝利至上主義偏重からの脱却が求められるようになってきている。著者のこれまでの研究では、スポーツクラブ未加入者はスポーツ少年団等のスポーツクラブに対して、練習が厳しい、競技レベルが高い、監督やコーチが怖い、勝利を目指している等のイメージをもっている。また、未加入の理由として体力に自信がない、練習が厳しそう、スポーツが得意ではない等の理由をあげる者も多い。生涯スポーツ社会の実現が目指される今日、これまでスポーツにあまり関わりがなかった子どもたちが気軽に参加できるスポーツクラブの設置等が求められることになる。

スポーツ活動未経験の子どもに対して、スポーツ実施の機会を提供するスポーツクラブとしては総合運動部があげられる。総合運動部は学校の運動部として、子どもの興味・関心に応じて多様なスポーツができるよう、複数の種目に取り組むスポーツクラブである。平成18年に改定されたスポーツ振興基本計画では、新たな政策課題とされた子どもの体力の向上を図る方策として、子どものスポーツの振興が謳われ、総合運動部活動の実施等の環境づくりの推進を図ることが記述されている。総合運動部の設置に取り組んでいる熊本市で実施した調査では、児童が週1～2日、試合で勝つことよりも体力をつけることやスポーツを楽しむことを目的として総合運動部で活動していることが明らかとなっている。しかしながら、この総合運動部は、全国的に見るとその設置はほとんど進んでいない。

このような状況の中で、これまでスポーツに消極的であった子どもにもスポーツの機会を提供するクラブ

として、総合型地域スポーツクラブの存在が注目されることになる。様々な興味・関心、技能レベルに対応可能な総合型地域スポーツクラブの役割は今後さらに重要になるとと思われる。

そこで本研究では、これまで子どものスポーツクラブとして主要な位置を占めてきたスポーツ少年団、およびスポーツ振興基本計画が策定されて以降、設置が進んできた総合型地域スポーツクラブの活動実態を明らかにすること、さらにスポーツクラブ未加入の子どもたちのスポーツ意識等の分析を通して子どものスポーツ参加を促進する観点から総合型地域スポーツクラブの役割について検討することを目的とした。

## 2. 方法

### 1) 調査対象

調査の対象地域はスポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブが共存している香川県木田郡三木町とした。三木町の人口は3万人弱であり、比較的小規模でまとまりのある地域である。小学校は4校あり、全小学校の児童の実態を把握することが可能な地域規模である。

調査対象者は三木町の小学校4校の4年～6年の全児童とした。

### 2) 調査方法

質問紙による配票調査を実施した。配布数754、有効回収数749、有効回収率は99.3%であった。

### 3) 調査時期

平成27年10月～11月。

### 4) 分析の視点

表1に示すように、総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブという）に加入している者をA群、スポーツ少年団に加入している者をB群、どちらにも加入していない者をC群とした。

表1 スポーツクラブへの加入

分類	実数	%
総合型地域スポーツクラブに加入している (A群)	58	7.7
スポーツ少年団に加入している (B群)	182	24.3
総合型・スポーツ少年団の両方に加入している	3	0.4
どちらにも加入していない (C群)	506	67.6

総合型クラブとスポーツ少年団の両方に加入している者は、本研究が総合型クラブとスポーツ少年団の差異を検討する立場に立つため、分析の対象から除外し

た。この分類に基づき、子どものスポーツクラブの活動実態やスポーツクラブに対する意識等を分析した。

### 3. 結果と考察

#### 1) 基本的属性

##### (1) 学年

表2は学年について示している。A群、B群、C群とも、ほぼ同様な学年構成となっており、三群間に差異は認められない。

表2 学年 (%)

	A	B	C	全体
4年	34.5	31.9	30.4	31.1
5年	31.0	35.2	36.8	35.9
6年	34.5	33.0	32.8	33.0

( $\chi^2$ 検定. 以下同じ) n.s.

##### (2) 性別

表3は各群の性別構成を示している。子どものスポーツ組織として全国的に定着しているスポーツ少年団・B群では、男子の比率が8割近くを占めている。子どものスポーツクラブ加入者の性別構成において男子が多いことは一般的な傾向としてこれまで多くの研究で示されてきた。これに対して総合型クラブ・A群では、男子が53.4%、女子が46.6%であり、男女の比率に大きな差異は見られない。これは、総合型クラブが女子も参加しやすいクラブであることを示唆している。総合型クラブの設置により、女子のスポーツクラブへの加入が促進される傾向にあることが示された。

表3 性別 (%)

	A	B	C	全体
男	53.4	77.5	41.7	51.3
女	46.6	22.5	58.3	48.7

p<0.001

#### 2) 総合型クラブの認知

平成19年に香川県木田郡三木町に総合型地域スポーツクラブ、「さぬき三木スポーツクラブ」が設立された。平成25年度の会員数は505名、17競技29教室が開催されている。そのうち子どもが参加できる教室は12教室となっている。また、太古の森恐竜クロスカントリー大会をはじめとするイベントも定期的に行われている。

##### (1) クラブ認知

表4は総合型クラブの認知状況を示している。さぬき三木スポーツクラブを知っている者は総合型クラ

ブ・A群で93.1%となっている。自分が総合型クラブに加入していてもそのクラブが総合型クラブであることを認識していない者もいる。スポーツ少年団・B群および未加入・C群では約半数の者が知っているとしている。スポーツ少年団に入りスポーツを実施している者でも半数程度しか総合型クラブの存在を知らない状況であり、総合型クラブに関する情報が地域に浸透していないものと思われる。

表4 クラブの認知 (%)

	A	B	C	全体
知っている	93.1	52.7	47.0	52.0
知らない	6.9	47.3	53.0	48.0

p<0.001

##### (2) 活動認知

総合型クラブ・さぬき三木スポーツクラブが行っている活動について、その認知状況は表5のようになる。どのような活動をしているか知っている者は、総合型クラブ・A群で70.7%、スポーツ少年団・B群で35.7%、未加入・C群で19.6%となっている。クラブの活動内容について認知している者はクラブの存在を認知している者より少なくなっており、スポーツと関わりをもたないC群では2割に満たない。総合型クラブの参加者を増やし活動を活性化するには、クラブの活動に関する具体的な情報の提供が求められることになる。

表5 活動の認知 (%)

	A	B	C	全体
知っている	70.7	35.7	19.6	27.5
知らない	29.3	64.3	80.4	72.5

p<0.001

##### (3) イベント参加

総合型クラブ・さぬき三木スポーツクラブが開催するイベントへの参加状況は表6のようになる。イベントに参加したことがある者は、総合型クラブ・A群で最も多くなっているが、36.2%にとどまっている。スポーツ少年団・B群では15.9%、未加入・C群ではさらに減少し、わずか4.7%となっている。イベントはクラブ会員のアイデンティティーを高めるとともに地域の人に総合型クラブを認知してもらう絶好の機会であるが、あまり有効に機能しているとはいえない。

表6 イベント参加 (%)

	A	B	C	全体
ある	36.2	15.9	4.7	9.9
ない	63.8	84.1	95.3	90.1

p<0.001

## 3) 運動・スポーツについて

## (1) 運動・スポーツの好悪

表7は運動やスポーツをすることにに対する好き嫌いについて示している。当然のことではあるが、スポーツ少年団・B群や総合型クラブ・A群において運動やスポーツをすることが好きだとする者が多い。これに対して、運動やスポーツをすることがどちらかといえば嫌い、または嫌いという者は未加入・C群に多い。しかし、C群においても、好き、または、どちらかといえば好きという者は80%程度を占めており、この子どもたちに対する的確なアプローチにより子どものスポーツ実施を促進していくことが生涯スポーツの推進に繋がることになる。

表7 運動・スポーツの好悪 (%)

	A	B	C	全体
好き	77.6	82.4	49.6	59.8
どちらかといえば好き	20.7	13.2	31.0	25.9
どちらかといえば嫌い・嫌い	1.7	4.4	19.4	14.3

p&lt;0.001

運動やスポーツをすることが好き、または、どちらかといえば好きと回答した、その回答理由は表8のようになる。未加入・C群や総合型クラブ・A群では、楽しいからという理由をあげる者が最も多くなっている。これに対して、スポーツ少年団・B群では、楽しいからという理由よりも、体を動かすことが好きだからという理由をあげる者が多い。さらに、スポーツ少年団・B群では、スポーツが得意だからという理由をあげる者が多い。スポーツ少年団の加入者ではスポーツが得意な子どもが多く、総合型クラブの加入者では運動・スポーツの楽しさを重視する者が多くなっている。未加入者は運動・スポーツは楽しいから好きだとする者が多く、総合型クラブの加入者と同様な傾向を示している。

表8 運動・スポーツが好きな理由 (%)

	A	B	C	全体
楽しいから	46.4	33.9	54.7	48.3
体を動かすことが好きだから	37.5	37.4	24.8	29.3
スポーツが得意だから	10.7	24.1	9.1	13.3
体にいいから	3.6	3.4	8.8	6.9
その他	1.8	1.1	2.7	2.2

p&lt;0.001

表9は未加入・C群において、運動やスポーツをすることが、どちらかといえば嫌い、または嫌いと回答した者の回答理由を示している。A群およびB群で

は、どちらかといえば嫌い、または嫌いと回答した者が極めて少ないため、データの提示および分析は行わない。

未加入・C群の子どもの運動・スポーツの嫌いな理由としては、スポーツが苦手だということ、さらに、体力に自信がないということがあげられている。スポーツクラブ未加入の状況には、この二つの理由が関わっているものと推測される。

表9 運動・スポーツが嫌いな理由 (%)

	C
スポーツが苦手だから	40.2
体力に自信がないから	37.1
楽しくないから	8.2
体を動かすことが嫌いだから	6.2
その他	8.2

## (2) スポーツ意識

スポーツに対する意識として、スポーツをするとき何が一番大事だと思うか尋ねた。その結果は表10の通りである。

スポーツをするとき一番大事なことは、三群ともに一生懸命がんばることとする者が最も多く、いずれにおいても60%を超えている。これに次いで多いのは、楽しむこととなっている。スポーツ少年団・B群では他の二群に比べて楽しむことをあげる者が少なく、これとは逆に、勝つことをあげる者が多くなっている。未加入・C群はスポーツ少年団・B群よりも総合型クラブ・A群に近い傾向を示しているといえよう。今後、未加入者がスポーツクラブに加入する場合、スポーツ意識の面で違和感なく活動できるのはスポーツ少年団よりも総合型クラブであると思われる。

表10 スポーツをするとき一番大事なこと (%)

	A	B	C	全体
一生懸命がんばること	65.5	61.0	60.6	61.1
楽しむこと	25.9	22.0	28.9	27.0
勝つこと	6.9	13.2	4.0	6.4
その他・わからない	1.7	3.8	6.5	5.5

p&lt;0.01

## (3) 身体的遊び・スポーツの実施

表11は平日に何時間くらい体を使った遊びやスポーツを実施するか、普段の身体的遊びやスポーツの実施状況を示している。なお、スポーツクラブの加入者については、クラブでのスポーツ実施時間は含んでいない。

未加入・C群は他の二群に比べて30分未満の者が多

く、2時間以上の者が少なくなっている。身体的遊びやスポーツに消極的な者が多い傾向がみられる。これに対してスポーツ少年団・B群は1時間以上2時間未満、および2時間以上の者が多く、三群の中で最も身体的遊びやスポーツに積極的であることがわかる。これは既に述べたように運動・スポーツの好悪の項目において、運動やスポーツをすることが好きだという者がB群において最も多く、三群の中でC群が最も少ない状況であることを反映したものである。

表11 身体的遊び・スポーツの実施 (%)

	A	B	C	全体
30分未満	24.1	23.8	42.3	36.4
30分以上1時間未満	50.0	35.4	37.5	38.0
1時間以上2時間未満	13.8	24.3	13.8	16.4
2時間以上	12.1	16.6	6.3	9.3

p<0.001

#### (4)勉強とスポーツ

子どもたちの生活の中で、勉強とスポーツのどちらに熱心に取り組んでいるか、その状況について尋ねた。表12にその結果を示した。未加入・C群では勉強、スポーツクラブ加入のA群とB群ではスポーツに熱心に取り組んでいるという結果となった。どちらも熱心に取り組んでいる者を合わせると、スポーツ少年団・B群ではほぼ90%の者がスポーツに熱心に取り組んでいることになる。総合型クラブ・A群でも同様な傾向がみられることから、スポーツクラブへの加入によって、スポーツへの取り組みが高まっているものと思われる。

表12 勉強とスポーツへの取り組み (%)

	A	B	C	全体
勉強に熱心に取り組んでいる	13.8	8.9	36.9	28.3
スポーツに熱心に取り組んでいる	44.8	50.0	24.0	31.9
どちらも熱心に取り組んでいる	39.7	38.3	31.3	33.7
どちらも熱心に取り組んでいない	1.7	2.8	7.8	6.1

p<0.001

### 4) スポーツクラブの活動

#### (1)加入期間

スポーツクラブへの加入期間は表13のようになる。総合型クラブ・A群では過半数の者が加入期間が2年未満となっている。加入期間が2年以上4年未満、および4年以上の者はスポーツ少年団・B群の方が多くなっている。このように両者を比較すると、傾向として、総合型クラブの加入の方が加入期間が短く、スポーツ経験が少ない状況がうかがえる。

表13 加入期間 (%)

	A	B	全体
2年未満	53.7	38.2	41.9
2年以上4年未満	22.2	34.7	31.7
4年以上	24.1	27.2	26.4

n.s.

#### (2)活動日数・練習時間

表14はスポーツクラブの活動日数を示している。総合型クラブ・A群では半数以上のクラブが週1日の活動となっている。これに対してスポーツ少年団・B群では週3日から4日のクラブが59.9%を占めており、週5日以上クラブを合わせると、70%近くのクラブが週3日以上活動していることになる。このようにスポーツ少年団の活動日数は総合型クラブの活動日数に比べて多くなっている。

次に、表15に示した一日の練習時間をみると、両群とも2時間以上3時間未満が最も多くなっているが、これに次いで、総合型クラブ・A群では2時間未満が44.6%、スポーツ少年団・B群では3時間以上が40.3%となっており、スポーツ少年団の方が練習時間が長くなっている。

これまでの調査研究においてスポーツ少年団等の活動過多の状況が指摘されているが、今回の総合型クラブの活動実態は活動日数、練習時間のいずれにおいても、これまでのスポーツクラブよりも少ない。子どもの負担という観点において、総合型クラブの方が適度な活動実施状況となっている。

表14 活動日数 (%)

	A	B	全体
週1日	55.2	8.8	20.0
週2日	12.1	22.5	20.0
週3~4日	27.6	59.9	52.1
週5日以上	5.2	8.8	7.9

p<0.001

表15 練習時間 (%)

	A	B	全体
2時間未満	44.6	15.5	22.4
2時間以上3時間未満	53.6	44.2	46.4
3時間以上	1.8	40.3	31.2

p<0.001

#### (3)練習の厳しさ

スポーツクラブの練習時の厳しさについて尋ねた結果を表16に示した。とても厳しいと回答した者は総合型クラブ・A群では8.6%にとどまっているのに対して、スポーツ少年団・B群では27.4%に及んでいる。これにやや厳しいと回答した者を加えると、スポーツ

少年団・B群では80%を超える者が厳しさを感じながら練習に取り組んでいることになる。総合型クラブではスポーツ少年団に比べて厳しさを感じている者は少なく、スポーツ少年団とは異なる雰囲気の中で活動が展開されていることがうかがえる。

表16 練習の厳しさ (%)

	A	B	全体
とても厳しい	8.6	27.4	22.8
やや厳しい	46.6	53.6	51.9
やや楽である	34.5	11.7	17.3
とても楽である	3.4	1.7	2.1
どちらでもない	6.9	5.6	5.9

p&lt;0.001

#### (4)クラブでの目標・目的

スポーツクラブでの目標・目的についてまとめると表17のようになる。

総合型クラブ・A群、スポーツ少年団・B群のいずれにおいても、上手くなりたいということをあげる者が最も多くなっている。スポーツを実施する中で少しでも技能を向上させたいと思うのは、ごく自然に湧いてくる感情のように思われる。これに次いで多いのは、試合で勝ちたいということである。

表17 スポーツクラブでの目標・目的 M.A. (%)

	A	B	全体
上手くなりたい	55.2	59.3	58.3
試合で勝ちたい	36.2	44.0	42.1
体力をつけたい	27.6	13.7	17.1
スポーツを楽しみたい	19.0	8.2	10.8
レギュラーになりたい	8.6	11.5	10.8
礼儀やマナーを身につけたい	3.4	6.6	5.8
友達をつくりたい	5.2	0.5	1.7

両群を比較すると、上手くなりたい、試合で勝ちたいということあげる者はスポーツ少年団・B群の方に多く、技能の向上や試合での勝利を志向する傾向がうかがえる。これに対して総合型クラブ・A群では、体力をつけたい、スポーツを楽しみたいということあげる者が多くなっている。体力をつけたいと思う背景には自分自身の体力状況にあまり自信がない者がいることを暗に示しているように思われる。また、ここに示された勝利と楽しさについての志向は、スポーツをするとき何が一番大事だと思うかというスポーツ意識の項目で示された、スポーツ少年団の加入者の方に勝つことが一番大事とする者が多く、楽しむことが一番大事だとする者は総合型クラブの方に多くなっていたことと共通する傾向となっている。

#### (5)クラブ加入のメリット・デメリット

スポーツクラブに加入して活動することにより子どもたちはどのような影響を受けることになるのか、クラブ加入によるメリットとデメリットについて検討することにした。

表18はスポーツクラブに加入して良かったと思うことについてまとめたものである。上位にあげられているのは、上手くなったこと、体力がついたこと、試合で勝てたことである。これらの項目はスポーツクラブでの目標・目的とほぼ一致しており、各自が求めていたものが獲得されている状況となっている。友達ができたということについては、目標・目的においては低位であったが、活動する中で獲得された想定外の効果であるといえよう。友達の獲得状況については別項目としても質問をしているので、その結果については後述する。

両群を比較すると、総合型クラブ・A群ではスポーツ少年団・B群に比べて、試合で勝てたこと、スポーツの楽しさがわかったことをあげる者が多い。総合型クラブの加入者はスポーツ少年団の加入者に比べてスポーツ経験が少なく、試合への出場や勝利を得た経験もあまりないため、試合での勝利を高く評価し、良かったこととしてあげているように思われる。また、スポーツの楽しさもスポーツを経験する中で新たに味わうことができたため、良かったこととしてあげる者が多くなったものと思われる。

表18 加入して良かったと思うこと M.A. (%)

	A	B	全体
上手くなった	63.8	53.3	55.8
体力がついた	24.1	27.5	26.7
試合で勝てた	32.8	23.6	25.8
友達ができた	10.3	22.0	19.2
スポーツの楽しさがわかった	22.4	9.3	12.5
礼儀やマナーが身についた	5.2	7.7	7.1
レギュラーになれた	0.0	7.7	5.8

スポーツクラブへの加入による友達の獲得状況について示すと表19のようになる。スポーツクラブに加入して友達がとても増えた、あるいは増えたとする者は合わせると全体では95%に及び、スポーツクラブへの加入が友人関係の拡大に繋がっていることがわかる。

表19 友達の獲得 (%)

	A	B	全体
とても増えた	43.1	65.9	60.4
増えた	46.6	30.8	34.6
変わらない	10.3	3.3	5.0

p&lt;0.01

両群を比較すると、総合型クラブ・A群に比べてスポーツ少年団・B群において、とても増えたという者が多くなっており、友達の獲得状況が高くなっている。これは、スポーツ少年団の方が総合型クラブに比べて、活動日数や練習時間が多く、対人的な接触をする機会や時間が多くなり、人間関係が濃密になることに起因しているものと思われる。

次に、スポーツクラブに加入して良くなかったと思うことについてまとめると表20のようになる。

総合型クラブ・A群、スポーツ少年団・B群のいずれにおいても、疲れることや、友達と遊ぶ時間が少ないことをあげる者が多い。これに加えて時間的なデメリットとしては勉強する時間や家族と過ごす時間が減ることなどがあげられている。

両群を比較すると、スポーツ少年団・B群では総合型クラブ・A群に比べて、ケガをすること、試合で負けることをあげる者が多い。ケガについてはスポーツ少年団の方が活動日数や練習時間が多く、ケガをする頻度が高まっているものと思われる。試合で負けることについては、スポーツ少年団の加入者の方がスポーツをするとき一番大事なこととして勝つことをあげる者が多く、また、スポーツクラブでの目標・目的として試合で勝つことをあげる者が多いなど、勝利を志向する傾向が強く、そのために負けることに対して強い不満感を抱くことになっているものと推測される。

表20 加入して良くなかったと思うこと M.A. (%)

	A	B	全体
疲れる	22.4	24.2	23.8
友達と遊ぶ時間が少ない	25.9	20.3	21.7
ケガをする	8.6	16.5	14.6
勉強する時間が減る	12.1	12.6	12.5
試合で負ける	1.7	13.2	10.4
家族と過ごす時間が減る	12.1	4.4	6.3
学校の成績が下がる	0.0	1.6	1.3

#### (6) クラブの活動評価・満足度

表21はクラブの活動日数に対する子どもたちの評価の状況を示している。現在の活動日数について、両群とも、ちょうどいいとする者が最も多くなっているが、その割合はスポーツ少年団・B群に比べて総合型クラブ・A群の方がやや多くなっている。これに対して、やや多い、または多すぎるとする者はスポーツ少年団・B群の方が多くなっている。既に述べたように、総合型クラブでは半数以上のクラブが週1日の活動となっているのに対して、スポーツ少年団では70%近くのクラブが週3日以上活動しており、スポーツ少年団の加入者の中には、この活動日数が過度の負担と

なっている者がいることがうかがえる。

表21 活動日数の評価 (%)

	A	B	全体
やや多い・多すぎる	6.9	21.4	17.9
ちょうどいい	69.0	57.1	60.0
やや少ない・少なすぎる	24.1	21.4	22.1

p<0.05

次にクラブの練習時間に対する評価状況を示すと表22のようになる。練習時間についても両群とも、ちょうどいいとする者が最も多くなっている。総合型クラブ・A群ではスポーツ少年団・B群に比べてちょうどいいとする者がやや多くなっている。これに対して、やや長い、あるいは、長すぎるとする者はスポーツ少年団の加入者の方に多く、35%程度に及んでいる。表15で示したように、総合型クラブでは練習時間が2時間未満の者が44.6%であるのに対して、スポーツ少年団では15.5%にとどまり、さらに、スポーツ少年団では3時間以上の者が40.3%に及ぶなど、スポーツ少年団の方が練習時間が長くなっており、この実態が今回の練習時間の評価に結びついているものと思われる。

表22 練習時間の評価 (%)

	A	B	全体
やや長い・長すぎる	17.2	34.8	30.5
ちょうどいい	65.5	54.1	56.9
やや短い・短すぎる	17.2	11.0	12.6

p<0.05

クラブの満足度については表23に示している。両群ともに、満足している者は過半数を占めている。どちらかといえば満足しているという者を加えると、90%以上の者が満足していることになり、両群ともに満足度は極めて高くなっている。

表23 クラブの満足度 (%)

	A	B	全体
満足	55.2	61.0	59.6
どちらかといえば満足	37.9	31.3	32.9
どちらかといえば不満・不満	6.9	7.7	7.5

n.s.

以上のように、総合型クラブやスポーツ少年団は、いくらかのデメリットとなる要素をもちながらも、全体としては子どもたちに満足を与えることのできる活動を展開しているといえよう。

そして、このような状況の中で子どもたちは今後のスポーツ活動についてどのように考えているのか、ス

スポーツの継続意志について尋ねてみた。結果は表24の通りである。両群ともに今のスポーツをこれからも続けたいとする者が9割を占めている。スポーツを続けたくない、あるいは、継続についてはわからないというスポーツの継続実施に否定的・消極的な者は6%程度にとどまっており極めて少ない。これはクラブの満足度の高さに起因しているものと思われる。

表24 スポーツの継続意志 (%)

	A	B	全体
今のスポーツをこれからも続けたい	91.4	89.5	90.0
他のスポーツをしたい	3.4	4.4	4.2
スポーツを続けたくない・わからない	5.2	6.1	5.9

n.s.

## 5) スポーツクラブ未加入者の意識

生涯スポーツ社会の実現がいわれる今日、より多くの子どもが日常的にスポーツを実施することができる環境を整えることは極めて重要なこととなる。スポーツクラブに加入することなく、普段の生活においても運動やスポーツを実施する機会が減少している子どもたちのスポーツ実施を促進することが喫緊の課題となる。その対応策の一つとして、これまであまりスポーツに関わりをもつことがなかった子どもたちも加入できるスポーツクラブの創設・普及があげられる。以下では、その手がかりを得るため、現在スポーツクラブに加入していない子どもが、スポーツクラブに対してどのような意識をもち、どのようなクラブを求めているのか、若干の検討を加える。

## (1) スポーツクラブへの加入希望・非加入理由

表25はスポーツクラブ未加入者にスポーツクラブに加入しようと思ったことの有無について尋ねた結果を示している。加入しようと思ったことがある者は3割程度となっている。今後、求められるのは、このような子どもたちをどのようにしてスポーツクラブに導くのか、その手法の検討である。さらに、現在3割程度であるスポーツクラブ加入希望者を増加させることである。そのためには現在のスポーツクラブのあり方を検討することも必要になるとと思われる。

表25 スポーツクラブへの加入希望 (%)

	C
加入しようと思ったことがある	30.8
加入しようと思ったことはない	69.2

表26にスポーツクラブ未加入者の未加入理由を示した。自由な時間が無くなることや他にやりたいことがあることをあげる者が多い。自由な時間が減っても加入したくなるようなスポーツクラブ、他のやりたいこ

とを超えるような魅力あるスポーツクラブづくりが求められることになる。これに次いで多いのは、練習が厳しそうなこと、体力に自信がないことをあげる者が多い。練習の厳しさについては表16に示しているが、スポーツ少年団ではかなり厳しい指導が行われており、そのような状況をみて加入に至らない、あるいは、体力に自信がなく、そのような厳しい練習にはついていけそうにないということで加入に至らない、このような状況にあることも考えられる。クラブの活動のあり方に関わる事項も重要な要素となっているように思われる。

表26 未加入理由 M.A.(%)

	C
自由な時間が無くなる	29.4
他にやりたいことがある	27.3
練習が厳しそう	25.1
体力に自信がない	23.9
仲間とうまくやっていく自信がない	15.4
勉強に集中したい	11.5
親が反対している	10.7
スポーツをするのが嫌い	9.1

## (2) 加入希望クラブの特性

スポーツクラブに加入するとしたら、どのようなクラブなのか、チームメイトの取り組みの状況について尋ねた。結果は表27の通りである。

最も多いのは約半数の者があげた、勝敗ではなく楽しく活動しているということである。これに次いで多いのは、みんなが真剣に取り組んでいるということ、さらに、勝利を目指して取り組んでいることという順となっている。このようにスポーツクラブ未加入者が望むクラブは、チームメイトが勝利を目指して取り組むというよりは、楽しく活動しているクラブだということになる。これは表10に示したスポーツをするとき何が一番大事だと思うかという質問に対する回答状況、すなわち、未加入者では勝つことよりも楽しむことを重視しているという結果と一致している。

表27 チームメイト (%)

	C
勝敗ではなく楽しく活動している	51.6
みんな真剣に取り組んでいる	24.6
勝利を目指して取り組んでいる	20.2
その他	3.6

次に、未加入者が望むクラブとしての目標は表28に示すような結果となった。ここにおいても、チームメ

イトの取り組み状況と同様に、みんなで仲よく活動したり、スポーツを楽しむことを目標として活動するクラブを求めていることがわかる。試合で勝つことを目標とするクラブを望む者は少数にとどまっている。

表28 クラブの目標 (%)

	C
みんなで仲よく活動する	24.4
スポーツを楽しむ	23.0
上手くなる	22.4
体力をつける	18.3
試合で勝つ	8.3
礼儀を身につける	1.6
その他	2.0

#### 4. おわりに

本研究は、これまで子どものスポーツクラブとして主要な位置を占めてきたスポーツ少年団、およびスポーツ振興基本計画が策定されて以降、設置が進んできた総合型地域スポーツクラブの活動実態を明らかにすること、さらにスポーツクラブ未加入の子どものスポーツ意識等の分析を通して子どものスポーツ参加を促進する観点から総合型地域スポーツクラブの役割について検討することを目的とした。

総合型クラブはスポーツ少年団に比べて女子の参加比率が高く、女子も参加しやすいクラブであることが示唆された。総合型クラブの設置・普及により女子のスポーツクラブへの加入が促進されることが期待される。

スポーツクラブ加入者では未加入者に比べて運動やスポーツをすることが好きな者が多い。運動やスポーツが好きな理由は総合型クラブ加入者およびスポーツクラブ未加入者では楽しいからという理由をあげる者が多く、楽しさを志向する傾向にあることが示唆された。これに対してスポーツ少年団の加入者ではスポーツが得意だからという理由をあげる者が多い。

スポーツクラブ未加入者はスポーツが苦手、体力に自信がないという理由で運動・スポーツが嫌いだとしている。スポーツクラブに未加入となっている状況にはこの二つの理由が関係しているものと思われる。スポーツがあまり得意ではない子ども、あるいは体力にあまり自信がない子どもも参加できるスポーツクラブの設置・普及が求められることになる。

さらにスポーツに対する意識として、総合型クラブの加入者およびスポーツクラブ未加入者は、スポーツ少年団の加入者に比べて、スポーツをするとき勝つことが大事だとする者が少なく、楽しむことが大事だと

する者が多くなっている。総合型クラブの加入者とスポーツクラブ未加入者は同じようなスポーツ意識をもっており、今後、未加入者がスポーツクラブに加入する場合、スポーツ意識の面で違和感なく活動できるのは総合型クラブだといえよう。

スポーツクラブの活動日数や練習時間は、スポーツ少年団に比べて総合型クラブの方が少なく、また練習の厳しさも総合型クラブの方が低くなっており、子どもの身体的負担あるいは精神的負担は総合型クラブの方が軽い。

クラブでの目標・目的では、スポーツ少年団、総合型クラブのいずれにおいても上手くなることをあげる者が多いが、両者を比較すると、スポーツ少年団では勝利を志向する傾向、総合型クラブでは体力・楽しさを志向する傾向がみられた。

クラブの活動に対する評価では、スポーツ少年団においては活動日数が多すぎることや練習時間が長すぎることを指摘する者が多くなっている。これは実際の活動日数の多さや練習時間の長さを反映したものであり、活動日数や練習時間が少ない総合型クラブにおいてはそのような指摘は少ない。クラブの満足度については、スポーツ少年団、総合型クラブのいずれにおいても9割を超える者が満足またはどちらかといえば満足していると回答しており、加入者の満足度は高い。また、今後のスポーツ継続意志についても9割程度の者が今のスポーツをこれからも続けたいとしており、スポーツ実施についての継続意志は強い。

以上のように、スポーツ少年団や総合型クラブは子どもたちに生涯スポーツに繋がるスポーツの場を提供しているといえよう。子どものスポーツ参加をさらに促進する方策の一つとして、現在スポーツクラブに加入していない子どもたちをスポーツクラブに加入するよう導くことが考えられる。今回取り上げたスポーツクラブのうち、総合型クラブは、これまでのスポーツクラブと異なり女子の加入を促進しており、これまであまりスポーツに関わってこなかった子どもたちのスポーツ実施を促進する可能性も持っている。また、総合型クラブの活動日数や練習時間は過度に多いという状況ではなく、子どもたちに過重な負担を強いることは少ないと思われる。さらに総合型クラブの加入者も持っているスポーツ意識はクラブ未加入者と共通しており、クラブ未加入者が加入しても違和感なく活動することができる。

このような総合型クラブの設置・普及が望まれるところであるが、総合型クラブの社会的認知度は低く期待される機能が十分に発揮される状況にはない。行政あるいは総合型クラブ関係組織・団体、また個々の総合型クラブが地域の人々に対して情報発信やイベント

等の実施を通して総合型クラブの認知度を高め、総合型クラブの設置・普及を促進、活動の活性化を推進していくことが必要となる。一人でも多くの子どもがスポーツを実施することができる環境の整備が求められる。

## 謝辞

本研究にご協力をいただきました香川県三木町教育委員会の皆様、三木町立平井小学校・氷上小学校・白山小学校・田中小学校の皆様、ならびに現地調査および資料収集等にご協力をいただきました佐治建太氏に深く感謝の意を表します。

## 文献

- 藤原誠（1997）子どものスポーツに関する研究－スポーツクラブからの離脱を中心に－. 愛媛大学教育学部保健体育紀要 第1号, 21-34.
- 藤原誠（1998）子どものスポーツに関する研究(Ⅱ)－勝敗観とクラブ参加状況の関係について－. 愛媛大学教育学部保健体育紀要 第2号, 17-24.
- 藤原誠（2000）子どものスポーツに関する研究(Ⅲ)－クラブ参加状況と継続意志－. 愛媛大学教育学部保健体育紀要 第3号, 23-30.
- 藤原誠, 堺賢治（2004）子どものスポーツクラブ活動に関する研究－試合への出場状況と活動意識－. 愛媛大学教育学部紀要 第51巻, 第1号, 121-128.
- 藤原誠, 堺賢治（2012）子どものスポーツクラブに関する研究－活動実態と未加入者の意識－. 愛媛大学教育学部保健体育紀要 第8号, 19-26.
- 藤原誠, 堺賢治（2014）子どものスポーツクラブに関する研究－総合運動部に着目して－. 愛媛大学教育学部保健体育紀要 第9号, 11-20.
- 熊本市教育委員会（2004）運動部活動の適正な推進. くまもと子ども輝きプラン進捗状況報告書(平成13～15年度) 6-7.
- 熊本市教育委員会（2007）児童生徒の体力向上. くまもと子ども輝きプラン進捗状況報告書（平成16～18年度）6-7.
- 熊本市教育委員会（2009）熊本市立小・中学校の運動部活動について《指針》.
- 文部科学省（2006）スポーツ振興基本計画（改定）.
- 文部科学省（2012）スポーツ基本計画.
- 文部省（2000）スポーツ振興基本計画.
- 日本スポーツ少年団（2009）スポーツ少年団の将来像.
- スポーツ基本法（2011）